

カンボジアでのボランティア活動に 本校生徒が参加しました

高校2年生の松本由衣さんが、3月27日～4月1日の5日間、カンボジアの都市 Siem Reap にあるトレニアップ村で、村の子供たちに日本語と英語を教えるボランティア活動に参加しました。松本さんは教育分野に興味があり、得意の英語を活かして、今回初めて途上国を訪れました。生徒は明るく「ユイせんせい、ユイせんせい」とすぐになついてくれたようです。

松本さんは「一つ日本と大きく違うと思ったのは、勉強の内容です。日本の教育とは授業を進めるスピードも教材の質も全然違いました。豊かさの違いがそのまま出ていたように感じます。日本では一人一人自分用の教科書、鉛筆や消しゴムがあり、服や持ち物はすべてきれいだと思います。でも彼らの場合、教科書はボロボロのものを隣の人とシェアするか、コピーした教科書一枚を使うかしか選択肢はなくて、消しゴムすら、貸し借りしないと足りません。経済的理由から自主退学する子も多いようで、先進国の教育を受けている私が、いかに恵まれているか、いかにラッキーな生い立ちかを痛感しました。」と話していました。

今後はこういう途上国の現状を少しでも多くの人に知ってもらうための活動をしてきたい、とも話していました。

